

# 寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.103 2025.12.19  
発行 寝屋川市自然を学ぶ会  
会長 山田 晃  
事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9  
千田 正喜 宅  
☎ 090-4036-0719



定例自然観察会 寝屋川公園どんぐりウォッチング 2025.11.22

## かぼちゃ

かぼちゃを見ていると  
話しかけたくなるんだ  
ヨオッと  
かたをたたいたりしてさ

音も ドデッとして  
きどっていないし  
けっとばされたって  
あつけらかんとして  
空を見ているだろうし

## 高丸もと子

君を見ていると  
心まで  
どっしりとしてくるんだ

教室で読みたい詩 小学校5・6年 <水内喜久雄編著・民衆社刊>

## 目次

- (2) 行事報告 1. 定例自然観察会 ④里山 四條畷・下田原地区  
⑥どんぐり 寝屋川公園
- (3) 行事報告 2. みんなの掲示板 ③シダ 私市植物園  
④紅葉 当尾の里
- (4) 行事報告 3. 野外活動センターとの協働活動②③  
私の散歩道
- (5) 参加・協力活動 淀川まるごと体験、フェットエスポール、  
たんぽぽ保育所、図書館科学講座
- (6) 参加・協力活動 茨田イチョウまつり、  
六中校区地域協、出前授業
- (7) みんなで作る自然教室(便り) ・子ども自然シリーズ講座⑧⑨  
・大人自然シリーズ講座⑥⑦⑧
- (8) 自然はすばらしい シダ植物 11 「ヤブソテツ」
- (9) 自然のふしぎ 海の火山 3 「単独火山」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫 51 「チュウゴクアミガサハゴロモ」
- (11) 図書紹介 「もしもハチがいなくなったら？」  
絵手紙紹介
- (12) 行事予定 定例自然観察会⑦冬鳥 ⑧私市植物園、  
みんなの掲示板⑤野鳥・鶴見緑地  
展示会案内、野活環境整備④  
編集後記

第4回自然観察会 四條畷・下田原（樹木・キノコ） 9月23日（火・祝） 参加者19名

## ～たくさんの植物やキノコにであいました～

田中 英明

暑さ寒さも彼岸まで、快適な観察日和のもと、19名の方が参加されました。

まず、集合場所奥のガガイモの花を見に行きました。すぐ近くに、タンキリマメが咲いているのを見つけて頂きました。



オオイヌタビの花囊

国道の歩道沿いではアンモナイトの形をしたアオツヅラフジの種子の観察などをしました。今年も田原台入口のそばでオオイタビの花囊（か）のう）を見ることが出来ました。里山に向かう戎川（えびすがわ）沿いの路傍には蝶が舞っているような形のハクチョウソウの花が咲いていました。田んぼ沿いに進んで行くと、トキリマメ、カキドオシ、オトコエシ（変種のオトコオミナエシかもとのことですが）、ヤマノイモ、スズメウリ、ノリウツギ、コシダ、ウラジロなど見られました。

里山に入ったすぐ右側で、このコースでは初めてのイチヤクソウを見つけて頂きました。少し奥のケアクシバは実が赤く熟していました。7月頃に可憐な花つけます。堂尾池までの道沿いに35種以上の植物が観察されました。

キノコの観察は、上田豪さんの案内でシロオニタケ、キイロイグチなど28種類が確認されました。昼食後、キノコの同定やキノコの菌糸と胞子を作って仲間をふやす部分の話などに耳を傾け、楽しく有意義な観察会でした。



キノコの同定

第6回自然観察会 寝屋川公園（どんぐり・樹木）11月22日（土） 参加者34名（内子ども9名）

## ～親子でどんぐりウォッチング～

木村 雅行

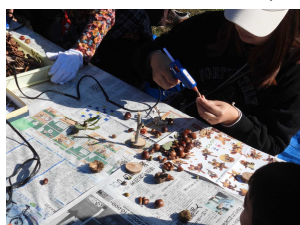
寝屋川公園でのどんぐりウォッチングはほぼ10年ぶり、月日の経つのはとても早いものです。今回は寝屋川市と寝屋川公園管理事務所、寝屋川公園・自然の会と一緒に4者の共催です。心地良い青空の下、公園管理事務所前で集まりました。今年は10月になっても暑い日が続き、紅葉もやっと今になって慌ただしく始まったところです。どんぐりの成り具合が例年以上に気がかりでしたが、この近辺ではクヌギやコナラなどは大豊作とっていいほどたくさんのどんぐりを落としてくれました。

管理事務所前から出発してふれあいの丘に向かい遊歩道を歩きます。この付近にはシラカシとアラカシが多く見られ、このよく似たどんぐりや葉の違いを見比べました。また、子どもたちとアラカシの葉をギザギザに引き裂いて楽しみました。残念ながらいつもなら真っ赤に紅葉しているナンキンハゼの葉はまだ緑色のままです。

ふれあいの丘にはコナラとクヌギの木がたくさんあります。丸くて大きいクヌギのどんぐり、細長いコナラのどんぐり、どちらも拾い放題です。配付した小さなビニールの手提げ袋には入りきれず、ふたつ目の袋にも集めてくれたお子さんもおられました。川沿いの遊歩道ではイヌビワの黒く熟した実やサンシュユの赤い実、ナナミノキやノイバラ・ニシキギの赤い実、白色に



クヌギが落ちているよ！



どんぐり工作

弾けたナンキンハゼの実などの秋の木の実もゆっくりと観察できました。

時計塔の前のどんぐり工作の会場では「どんぐりの重さ当て大会」も楽しんでいただき、どんぐりペンダント・やじろべえ作りとともに子どもさんやご家族の皆さんの独自の作品づくりにも熱心に取り組んでいただけたようで、とてもうれしいです。子どもたちのたくさんの笑顔もいただき、ありがとうございました。



## 第3回みんなの掲示板 私市植物園（シダ植物）

10月13日(月・祝)

参加者 40名

## ～植物園内にシダの名札がたくさん～

天野 史郎

曇り空のもと、私市植物園に集まった40名ほどの参加者のなかには、小中学生の顔も見られにぎやかでした。

まず水生シダの観察から始めました。水槽のミズワラビは南方系のシダで、河内森にあるヒメミズワラビより大きく、食用にもされるそうです。カラタネオガタマの林に移動し、モトマチハナワラビを観察。ロープで囲われ大事に保存されていました。とても貴重なシダです。

大クスノキに着生するシノブは、冬にはすっかり枯れてしまいます。展示室そばのクスノキに着生するトキワシノブは常緑でソーラスがポケット型です。池をすぎて左手のスギ林に道をとると、ベニシダにまざってギフベニシダがあります。ギフベニシダは、かつて園内の各所に見られましたが減少しています。

昨年から立入禁止が解除されたミツマタの谷を行くと、エンシュウ



ヒメワラビ

ベニシダ、ヒメイタチシダ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビなどが見られます。広場から二ノ谷に向かうと、ベニシダ群落にギフベニシダの名札があるもののギフベニシダは見つかりません。名札の設置ミスようです。そばのクロノキシノブを観察。最近新種となったもので、ノキシノブとナガオノキシノブの雑種起源と



観察のようす

されています。山野草園をすぎ、ベニオオイタチシダ、ヒロハイスワラビ、

ハリガネワラビなどを見て、ユリノキ広場にもどりました。

## 第4回みんなの掲示板 紅葉の当尾の里

11月25日(火)

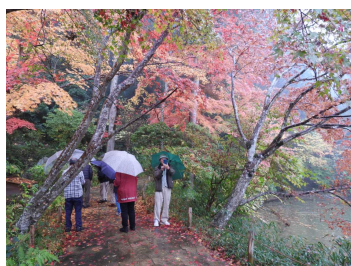
参加者 23名

## ～岩船寺から浄瑠璃寺コースを歩く～

中村 清秀

前日の天気予報では午前中は雨で午後には回復するとのこと。急遽、雨天用プログラムに変更。当日、集合時は予報通り冷たい雨が降っている中、23名の参加者で出発しました。

途中、精華町のメタセコイヤ並木を車窓見学、見事に茶色に染まり、深まりゆく秋を感じました。



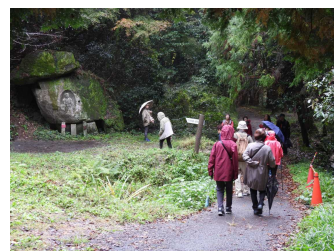
雨の浄瑠璃寺

最初に訪れた浄瑠璃寺の門をくぐると、参加者から「ワー、きれい！」の声。赤、茶、黄の色とりどりに染まるイロハモミジやカエデには目を見張るものがあり、池越しに雨にけぶる本堂や五重の塔、遊歩道に落ちたモミジの葉も映えていました。

続いて訪れた岩船寺の本堂でのお坊さんのお話は、雨の落ちるしずくの音とともに静かに心の中に沁みました。特別公開された秘仏とも対面し、境内を散策。当尾の里が望める丘まで足を延ばした参加者もいました。

バスの中で昼食後、岩船寺からミロク の辻を抜ける頃には雨も上がり雲間からは日差しが。クヌギやマテバシイ等のどんぐり、途中途中にある石仏や摩崖仏に手を合わせながらの自然観察。野草や木の実の名前を教え、教えられながら山を下り、道端のカラスウリを採るのに一苦労する参加者もいました。

“雨の中でのお寺の景色も良かったね” “雨に濡れた落ち葉の道を歩くの怖かったけど色が映えてとても綺麗かった” など、秋の自然を堪能した観察会でした。



二尊摩崖仏

## 寝屋川市野外活動センターとの協働活動

## 第2回自然観察と環境整備

10月7日(火)

参加者 20 名

天気が良く、作業をすると汗ばむ気候でした。作業後、工作室の近くでは風が通り心地よかったです。多くの方に参加いただき、樹木の剪定、階段や通路のそうじ、草刈り、樹木の名札の作成や修理、昼食の準備と分担して作業を進めました。

お楽しみ昼食は、カルボナーラ風うどんと野菜サラダをいただきました。美味しかったです。

午後は、寒谷池から森の広場への自然観察で、アリジゴク、オオバコの維管束、ツリバナの刀等楽しみました。初めて参加の方が数人おられ、「自然の中で作業が楽しかった」の声も。



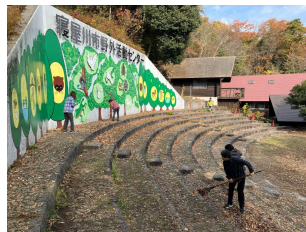
カルボナーラ風うどん！

## 第3回自然観察と環境整備

12月2日(火)

参加者 23 名

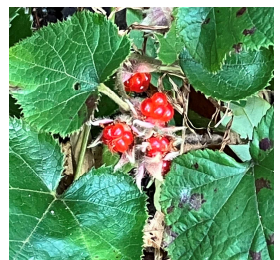
12月なのに暖かい日で、作業ははかどりしました。今回も多くの方の参加があり、樹木の剪定、階段や通路の掃除、広場の落ち葉掃除、樹木の名札の作成や修理、クリスマスリースの材料集め、昼食の準備と分担して作業を進めました。暖かく作業を始めると上着を脱ぎました。



落ち葉がいっぱい！

お楽しみ昼食は、マーボドーフどんぶりと水餃子コンソメスープを美味しくいただきました。柿やみかんラフランスそしてコーヒーも。

午後は、寒谷池から森の広場へ生け花用の柿や赤い実のついたソヨゴをゲット。森の広場では一面のフユイチゴ。赤い実を採ったり食べたり楽しみました。



フユイチゴの実

## 私の散歩道

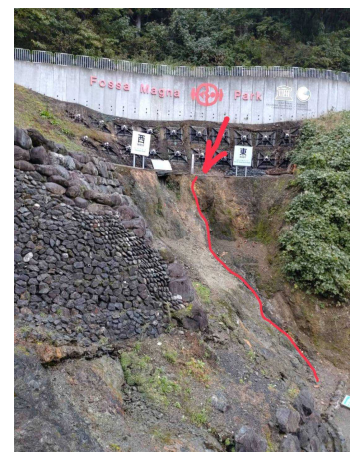
## 「糸魚川にフォッサマグナを訪ねて」

丸山 涼子

「フォッサマグナ」とは、まだアジア大陸の一部だった日本列島が大陸から引き離される途中で西と東に折れ曲がってできた「大きな溝」のことです。そこに海水が入り込んで日本海と太平洋をつなぐ海峡となり、やがてサンゴ礁や海底火山の噴出物で埋め立てられていきました。その後プレートの働きによって大地が盛り上がり、再びくっついて日本列島は現在のような姿になったといわれています。

大陸の古い地層である西日本と、かつて海の底だった新しい地層（フォッサマグナ）がくっついた場所が糸魚川と静岡を結ぶ境界線で、フォッサマグナ西側の大断層です。一度割れて離れた大地が再びくっついた 300 万年も前の境界が「ここだ！」とはっきりわかるなんて何とドラマチックなんでしょう！

その境界線の真上に日本酒の醸造所があり、西側の井戸からは軟水、東側の井戸からは硬水が湧き、異なる水質の水を使って日本酒を仕込んでいるそうで、地質の違いがわかり、大変興味深いです。この糸魚川—静岡構造線をおおよその境にして、西日本と東日本の人々の暮らしや文化に違いがみられることにも興味をそそられます。糸魚川ジオパークは、古来よりヒスイの産地としても有名で、日本列島誕生の大きなドラマが体感できる場所です。



300 万年前の境界！



## 参加・協力活動

地域団体などと参加・協力活動を進めました。秋には多くのイベントがあり、会員の皆様にご協力をいただきました。

### □ 淀川まるごと体験会 9月21日(日)

協力者 5名

昨年は8月に1回だけ実施されましたが今年度は、夏の暑さを避けて春4月と秋9月のこの日に実施されました。

本会も参加し、淀川の草花の展示とキャップを使ったブンブンごまと、どんぐりのペンダントの手作り工作で参加しました。ブンブンごまはうまく回すと音が出るので子どもたちは何回も挑戦していました。首に飾ってうれしそうにしていました。



Eボート乗船体験

川边にはEボート体験を楽しむ子どもたちもいました。

### □ フェットエスポアール

10月25日(土)・26日(日) 協力者 39名

前日に、準備に出かけ本会の活動内容とどんぐりの標本等の掲示をすませました。

当日は、グルーガンを使ったどんぐり工作、幼児用の色付けのこま、レインボーごま、ブンブンごま、どんぐりペンダントです。レインボーごまは1日目で、2日目にブンブンごまをしました。どのブースも多く

の子どもたちで賑わい、大盛況でした。色を付けたこまを回す場所では、知らない子ども同士が競い合っている姿が印象的でした。子どもたちは、作った物をうれ



こま回し

しそうに持ち帰りました。

### □ たんぽぽ保育所 10月29日(水)

園児27名 協力者3名

#### 「触れるかな? トノサマバッタ」

園庭の真ん中で、バッタの入った飼育ケースを開けると、トノサマバッタなどが飛び出してきました。子どもたちはバッタを追いかけてつかまえては大喜び。手にいっぱい持っている子も。触れなかったのに少し触れた子も。



バッタだー!

十分楽しんだあと教室へ。班に分かれ、今日見た虫について話し合いがあり、その後「トノサマバッタクイズ」と「カマキリクイズ」でそれぞれの生態を学びました。よく知っている子も。「ちょっとこわかったけど一人でさわれた」など感想がありました。

### □ 図書館科学講座 11月16日(土)

子ども 16名(他 24名)

#### 「もしも原子がみえたなら」

「私たちの周りにあるものは、みんな原子でできているのです」で始まりました。

「もしも見えたとして、この空気はどのように見えるか」絵に描いてもらい、酸素分子、窒素分子、水分子、二酸化炭素分子等をひとつひとついねいに、模型を見せながら話されました。「二酸化炭素は空気中に1万個の中で3個だけ」の説明に、「植



原子が見えたら!

物はたいへんだね。3個だけの二酸化炭素を探さなければならぬ」とつぶやいた子に、周りの大人もびっくり。

難しい題目なのに、西村さんの話到最后まで熱心に聞き入っていました。

## □ 茨田イチョウまつり

11月23日(日・祝) 協力者6名

淀川点野の茨田樋遺跡水辺公園で、第18回イチョウまつりが開催されました。

本会からはパネル展示とどんぐりのやじろべえ・紙に色を付けるブンブンごまの手作り工作で参加しました。ブンブンごまは、厚紙に色鉛筆で模様を付けて紐を引いたり、緩めたりして遊びます。初めはうまく回せなかったけど、大人の人に教えてもらい回せるようになり、うれしそうに何回も回していました。

参加者は、豚汁と焼ギンナンをいただきながらEポート乗船体験などを楽しんだり、茨田樋遺跡水辺公園のいわれを聞くなど水辺交流の輪が広がりました。



イチョウまつりのようす

## □ 六中校区地域教育協議会

11月24日(月・振休) 協力者9名

## 「楽しいどんぐり工作」

六中校区地域教育協議会主催で、今年は第五小学校の体育館で行われました。インフルエンザが流行っているために参加者が30名弱と少ない中、8グループ



ブンブンごま作り

に分かれて、どんぐり工作、どんぐりペンダント、やじろべえ、ストローひこうき、キラキラスコープ、ブンブンごまを作りました。

中でもストローひこうきは人気で、完成後体育館では飛ばし合いになり、10mを超えて飛ぶ飛行機に歓声が沸きました。

引率の保護者やお手伝いの地域の大人も子どもとともに工作に参加して、子どもの発想力に驚いておられる様子でした。

子どもたちが少しでも自然に親しみ、学ぶ喜び、作る楽しさを育んでくれれば幸いです。

## □ 出前授業

10月～12月

東小、北小、宇谷小、木田小、桜小、三井小、和光小、楠根小、たんぼぼ保育所の9施設

に行ってきました。前日には、やじろべえにするどんぐりに児童数分穴を開けたり、クラス数のどんぐり工作用に仕分けたりして準備をします。当日は、クラスに2名の協力者が入り、秋の様子として紅葉や木の実・どんぐりの話を、子どもたちと話し合います。木の実としては、リンゴ、柿、ミカン、栗などよく知っている物の他、カラスウリの実も見てもらいます。木の葉は、校内にある落ち葉を見せると、休憩時間に落ち葉を持ってくる子もいました。



秋のようすの話

次に、子どもたちが待っていたどんぐりペンダントとやじろべえ・どんぐり工作です。やじろべえでは、いくら揺らしても落ちないのに、不思議がっています。最後は、トトロのついたどんぐり工作。グルーガンで着けてもらうため、木の実や枝などを2個ずつ持って並びます。何回も並んで自分の思っている作品にでき上がっていきうれしそうでした。もっとやりたそうでしたが、まとめ・感想を聞いて終わりました。



ここに着けて！

# みんなでつくる自然資料室だより

## □子ども自然シリーズ講座

### ⑧ガリガリプロペラ 9月20日(土)

子ども8名(他9名)

木の枝の先に小さなプロペラを付けて、針金を巻き付けてわりばしでこするとプロペラが回るというおもちゃです。申込が少なかったなので、大人も一緒に作りました。初めは、1枚のプロペラで挑戦です。針金を巻くのが少し難しかったみたいですが、出来上がってプロペラが回ると、次は3枚のプロペラに挑戦していました。お母さんより上手に回していた子もいました。「家にいるお母さんをびっくりさせたい」との感想。

いっぱい回せたので、得意気でした。



ガリガリプロペラ

### ⑨リース作り 12月13日(土)

子ども21名(他26名)

リースの話と飾り付ける樹木の話の後、リース作りの始まりです。材料集めでは、前にある限定品に集まり、手に持ちきれないほど集めていきます。次に、横にある実や葉です。赤い実のナンテンや緑の葉のヒイラギ、ゴールドクレストなどを選んで自分の席に運んでいました。紐や針金で縛ったり、グルーガンで接着していきます。周りの大人やスタッフの手助けもあり、それぞれ満足のいく作品が出来上がりました。



ここに付けて！

## □大人自然シリーズ講座

### ⑥竹工作(干支・午) 10月31日(金)

参加者31名

机には、太さの違う2種類の竹とこのぎりなどの道具類



午がいっぱい

が置かれています。まず、太い竹を頭と首、胴の部分に切り分けます。細い竹で4本の足を作ります。それぞれの部分をグルーガンで接着しました。「首が、上の方を向いてしまった」「顔が真っ直ぐ向いていない」「4本の足が、うまく下の竹につかない」など。最後に、紐やリボンで手綱と鞍等を付けて完成です。四苦八苦しましたが、満足されている様子でした。

### ⑦⑧リース作り 12月15日(月)

参加者 午前27名、午後29名

申込日は、学習室の前に10時を待っておられる方も。電話は1時間鳴りやまず、途切れることなく対応。

当日は、リースの話や秋の七草でもあるクズの話の後、飾り付けていきます。子どもと



ここがいい！

違って、自然の葉や実を中心に飾り付けられます。クリスマスのためとか、正月に飾れるようにと目的を持って仕上げていきます。付け方にもこだわりを持ちいろいろ考えながら、麻紐と針金でしっかり取り付け、グルーガンで接着。周りの作品を見て満足のいく自分だけのリースの完成です。



# 自然はすばらしい シダ植物シリーズ11

## ヤブソテツ オシダ科

天野 史郎

ヤブソテツは古くから知られており、倭名類聚抄に貫衆という中国名でのっています。ただし、貫衆にはさまざまな植物があてられており議論のあるところです。さらに時代が下ると、江戸時代の諸国産物帳にヤブソテツの名が見られます。名前の由来は、やぶに生えソテツに似ていると図鑑に書かれていますが、あまりピンときません。古くはシシガシラの異名にヤブソ



テリハヤブソテツ

テツがあり、形からしてこちらの方が納得できます。いつの時代か名前が入れかわったのかも知れません。

ヤブソテツは一回羽状複葉の特徴ある姿をしており、一目でその仲間だとわかります。根茎は塊状で、葉は集まってつきます。ヤブソテツの仲間は、羽片の先端に鋸歯がないオニヤブソテツ類と、鋸歯があるヤブソテツ類に分けられます。オニヤブソテツ類は葉が厚く、北河内ではナガバヤブソテツとオニヤブソテツが見られますが、詳しくはまたの機会にゆずります。

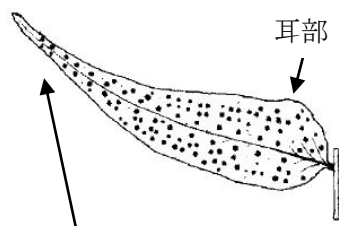
ヤブソテツ類のテリハヤブソテツは、葉質がややうすく光沢があり、羽片の耳が発達しません。最も普通に見られるヤブソテツです。以前の図鑑

ではヤブソテツとヤマヤブソテツが分けられており、この2種の区別に頭をなやませたものでした。しかし最近の図鑑では、ヤマヤブソテツが同種異名（シノニム）としてヤブソテツに含まれ、新たにテリハヤブソテツが独立種とされました。

ヤブソテツの分類はまだまだ流動的で、ホソバヤマヤブソテツ、ツヤナシヤブソテツ、ヒラオヤブソテツなどと分ける試みがなされていますが、いずれも正式に発表されていません。そのなかでホソバヤマヤブソテツは、比



ホソバヤマヤブソテツ



先端に鋸歯がないのがオニヤブソテツ類、ヤブソテツ類は鋸歯がある

較的安定した形をしてわかりやすいものです。羽片は数が多く、深緑色で光沢がありません。山すそから山地にかけて普通に見られます。

ヤブソテツ類は無配生殖種ばかりなので実態の解明がむづかしいのでしょう。いつの日かヤブソテツの分類がすっきり整理されるまで、あれやこれやと自己流に名をつけて楽しむのもありと思います。



## 自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「アンモナイトのふしぎ1～4」に続いて、今年度は「海の火山1～4」をお届けしています。

### 海の火山3

### 単独火山

西村 寿雄

海底火山にはいろいろのタイプがあります。プレートの境目では海溝火山(プレート沈み込み帯火山)が多くありましたが、大洋の中はどうでしょう。

まず、目にとまるのはハワイ島です。ハワイ島火山は太平洋プレートのだ真ん中、太平洋の中心にあります。こんなところにどうしてポツンと火山があるのでしょうか。じつは大洋の真ん中にマントルからの吹き出し口があるのです。ここはホットスポットと呼ばれています。ホットなマントル物質のかけ上り口のスポットと言うのでしょうか。

ハワイ諸島にはいくつか島があります。みなさんがまず行くのはハワイの玄関口オアフ島です。オアフ島も元は今のハワイ島にあったのです。噴火が終わると北東側に次々と島だけが移動していたのです。ホットスポットはそのままです。以前にホットスポットで噴火した火山島は移動して天皇海山列まで続いています。

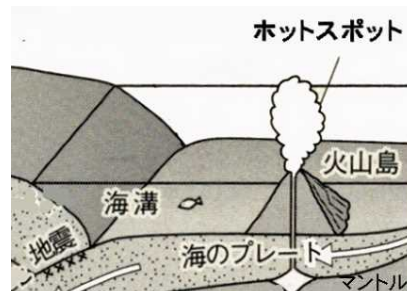
噴火している場所(ホットスポット)はあくまで今のハワイ島だけです。ハワイ島の中に今活動しているキラウエア火山もあります。

大洋の中にある単独火山は世界にはたくさんあります。世界中には50以上あるという科学者もいます。

世界では、太平洋上にあるサモア島、カロリン諸島などの島もホットスポット火山の一つです。アイスランドの陸地にもホットスポット火山があります。

世界中の海底火山はまだまだありそうです。

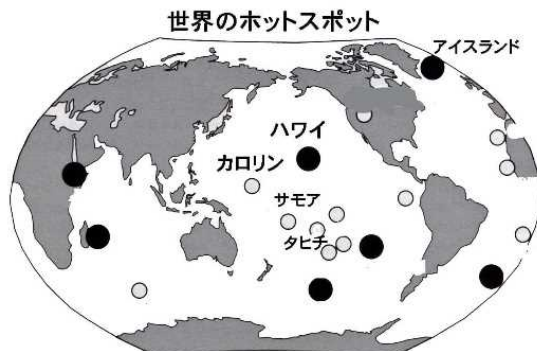
ホットスポット火山以外の単独火山もあります。次回をお楽しみに。



鎌田浩毅著『地球は火山がつくった』



ハワイ島キラウエア溶岩



●は下部マントルから

佐野貴司著『地球を突き動かす超巨大火山』

## 私の自然観察

### 身近な昆虫 51

#### —チュウゴクアミガサハゴロモ—

高本 憲二

下の写真の虫、今年の夏、あちこちで見かけませんでしたか？  
師走を迎え、木々の葉も落ち、冬の観察が楽しい季節となりました。今回は、少し時計の針を戻して、今年の夏に私たちがフィールドで頻繁に目撃した「あの昆虫」について振り返ってみたいと思います。



#### ■「あの白い綿毛」の正体

夏の暑い盛り、街路樹や公園の植え込みで、枝に白い綿のようなものが付着しているのをご覧になった方は多いのではないのでしょうか。「カビかな？」と思って近づくと、ピンッと跳ねて飛んでいく不思議な物体。まるで白い綿毛を着た妖精のようですが、これ「チュウゴクアミガサハゴロモ」の幼虫です。お尻からロウ物質（ワックス）を分泌し、白いフサフサとした尾をまとっているのが特徴です。



そして、夏から秋にかけて成虫になると、こげ茶色の翅（はね）を持った姿へと変わります。一見、ガ（蛾）の仲間に見えますが、セミやカメムシに近いカメムシ目の昆虫です。

#### ■なぜ今年、こんなに増えたのか？

この昆虫は、名前の通り中国大陸や台湾などを原産とする外来種です。日本では近年、急速に分布を広げています。今年の夏、特に個体数が多く感じられたのは、彼らが非常に多くの種類の植物（果樹、庭木、街路樹など）の汁を吸うことができ、都市環境にも適応しているためと考えられます。

#### ■在来種との違い

私たちに馴染みのある在来種「アミガサハゴロモ」と非常によく似ていますが、成虫の翅の模様で見分けることができます。

- **アミガサハゴロモ（在来種）**：暗褐色～黒褐色で、前翅前縁の中央部にはっきりした白紋を持つハゴロモの仲間。林縁の下草やカシ類の葉上で見られる。（右の写真）
- **チュウゴクアミガサハゴロモ（外来種）**：茶褐色～鉄錆色で、前翅前縁の中央部に不鮮明な白紋を持つ。ブナ科、マメ科、ムクロジ科、モクセイ科、カバノキ科、クワ科など多くの植物に付き、都市部の公園や人家の庭などでもよく発生する。（上の写真）



#### ■生態系への影響と今後の観察

彼らは植物の汁を吸うだけでなく、幼虫が出す甘い排泄物が「すす病」の原因となり、植物を黒く汚してしまう被害も報告されています。

外来種が定着し、爆発的に増える現象は、地域の生態系バランスが変わっていくサインでもあります。在来種のアミガサハゴロモとの競合も懸念されます。冬の間、彼らは卵の状態で越冬していると考えられています。来年の春、またあの白い綿毛たちがどれくらい現れるのか。ただ「増えたね」で終わらせず、身近な自然の変化として、引き続き会のみなさまと注視していきたいと思っています。



## 図書紹介

～こんな本が出たよ～

## 『もしもハチがいなくなったら?』

横井智之著

岩波ジュニア新書 岩波書店

平易な文でわかり良く書かれているので、小学生高学年から読めるのではないかな。ぜひ、子どもたちにも読んでほしい一冊である。

「あとがき」に「『もしもハチがいなくなったら』とは、決して絵空事ではなく、現実味をもった状況といえるでしょう。」と書かれている。もし、ハチがいなくなったら動物は生きていけないのでこれは一大事。今年の暑い夏、昆虫類は少なく感じたのは私だけだろうか。この本は、とりわけハナバチについてくわしく書かれている。まずはハナバチ仲間の紹介がある。ハナバチにはミツバチやハキリアリなど約15種以上もいる。ハナバチの特徴はなんといっても体全体に生えている「毛」。その毛が花粉を運ぶ手助けとなる。意外なのはハナバチの多くは地中に巣をつくるとか。あまり見たことないが注意して見て見よう。その他、ハナバチの特徴など含めてハナバチ記事は60ページにも及んでいる。次は「人の暮らしを支えるハナバチ」。何ととっても、作物生産の支えになっているのは、みなさんご存知の通り。特にミツバチは私たちに甘い蜜を届けてくれる。よく言われているのがハウス栽培ではよく利用されるマルハナバチ類。果樹園などではハナバチのお世話になっている。野菜類もハチが来ないと結実しない。日本でのハナバチなどによる「送粉サービス」の価格は2013年度で約4700億円にも達するとか。イチゴなどいい形に食べられるのはハナバチのおかげ。次は「消えるハナバチたち」。懸念されていることが現実になりつつある。アメリカなどではハナバチ類も個体数を大きく減少しているとか。考えられる原因としては、品種改良のおかげでハチたちの餌となる花粉や花蜜が少なくなったこと、病気や地球温暖化、農薬の増加などもある。「ハナバチたちと支え合う」システムの大切なことを訴えて終わっている。

2025年3月 880円

&lt;西村 寿雄&gt;



## 絵手紙紹介



作：内田桂子

# 行事予定

## □定例観察会⑦

### 「野鳥の観察」

～淀川・太間公園から点野わんど～

◇日時：2026年1月11日(日)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：太間公園 駐車場

午前9時30分集合

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：中井 新一 さん

この行事は、寝屋川市環境総務課と共催で実施します。本会会員は申込不要です。集合場所において下さい。

\*下見：1月6日(火)日程は当日と同じ

## □みんなの掲示板⑤

### 「鶴見緑地公園の野鳥」

～冬鳥の観察(カモなど)～

◇日時：2026年2月11日(水・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：地下鉄鶴見緑地公園駅改札付近

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：中井 新一 さん

## □定例自然観察会⑧

### 春の野草・樹木 「私市植物園」

◇日時：2026年3月20日(金・祝)

9:30～12:00 雨天中止(午後は自由見学)

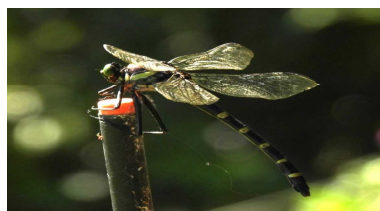
◇集合：私市植物園 9時30分

◇持ち物：筆記用具、水筒、(弁当)

◇入園料 400円

(中学生以下無料・府内在住65歳以上300円)

◇駐車料 500円



オニヤンマ 2025.9.23 下田原

## 展示会「私の自然観察」

◇日程：2026年1月22日(木)～28日(水)

◇会場：アルカスホール 1階ギャラリー

◇展示内容

①本会の今年1年間の活動記録

②会員のみなさんの「私の自然観察」

③関係機関・団体の活動紹介ほか

(参加者の交流コーナーも予定しています。)

◇展示作品の募集

身近な生活や旅行等で撮られた「自然」に関わる写真などをお寄せください。内容・形式については自由です。

\*展示作品の受付等、詳しくは別紙連絡資料をご覧ください。

## □野外活動センターの自然観察と環境整備④

◇日時：2026年2月3日(火)10:00～14:00

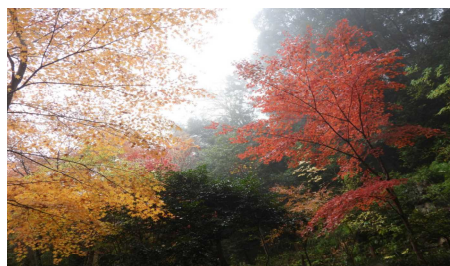
◇持ち物：帽子、雨具、水筒など、

◇内容：センター内の自然観察と環境整備

◇昼食：お楽しみ昼食

◇参加申込：1月28日(水)までに下記へ

千田(090-4036-0719) 東森(090-5645-1531)



紅葉 2025.10.25 当尾の里

## 編集後記

酷暑の夏から、短い秋、そして冬の訪れと目まぐるしく季節が変遷しました。そんな中でも予定の行事は、雨天中止の観察会を除いて計画通り進めることができました。例年通り参加行事や出前行事に参加し、他団体との交流や多くの市民の方々との交流も進めることができました。会員の皆さんのご協力に感謝します。1月の展示会でもみんなで作品を持ち寄り、自然体験活動を深め、楽しめたらと思います。